

姫島駅(阪神本線)

アカルヒメ伝説の地を歩く



「大阪あそび歩マップ集」
その2 No.051

阪神姫島駅

① 慈雲寺

- 真宗大谷派の寺院で、宝物には親鸞聖人真筆の大經三願文(京都国立博物館預託)、鎌倉期の釈迦十六善神像(奈良国立博物館預託)があります。

② 大和田街道

- 明治41年(1908)竣工。起点は難波橋北詰で西成大橋・姫島・大和田・出来島・佃・左門殿川を通り、終点は^{たいもつ}大物(尼崎市)に至る旧国道です。大物からは中国街道に合流し、西宮を経て山陽道として下関に達する主要幹線道路でした。姫島村のメインストリートで、かつては商店、市場、芝居小屋(大源座)などが立ち並び、現在でも慈雲寺、遍満寺、姫島神社などがすべて街道沿いにあります。しかし、大正15年(1926)に淀川大橋が架かって新国道ができると、自然と街道は廃れてしまいました。所々に大和田街道の石碑が点在しています。



③ 遍満寺

- 姫島最古の寺院で、天文6年(1537)に創建されました。

④ 姫島神社

- ご祭神は阿迦留姫命と住吉大神です。『摂津国風土記』逸文には、「比売島の松原、昔、軽島の豊阿伎羅の宮に天の下をおお治めになった応神天皇の世に新羅国に女神があった。夫から逃れて筑紫国の伊波比の比売島に住んでいたが、この島へ夫が尋ねて来ると難波の島へ逃げた。それで前に住んでいた島の名前をとって比売島と名づけた」という記述があります。また、『古事記』の応神天皇条には、「新羅国の女が昼寝をしていると、その陰上に太陽が虹のように輝き、やがて生んだ赤玉が美女と化したのがアカルヒメである」という記述があり、「アメノヒボコはアカルヒメを追って難波に渡来しようとしたが渡しの神が遮ったため、引き返して但馬国に留まった」という記述もあります。境内には、明治33年(1900)建立の万葉

- 歌碑「妹が名は 千代に流れむ 姫島の 小松がうれに 苔生す までに」があり、「千代に」「苔生すまで」のフレーズから『古今和歌集』の「君が代」に影響を与えたといわれています。



⑤ 大野川緑陰道路

- 約3.8キロの歩行者・自転車専用道路です。神崎川と淀川を結ぶ大野川は地域の舟運や治水に利用されてきましたが、工場排水で河川の汚濁が目立つようになると、環境改善のために昭和46年(1971)から埋め立てられ、昭和54年(1979)に完成しました。

阪神姫島駅

